

日系カナダ人の歩み

トヨ・タカタ



一八三三年、カナダ太平洋岸のクイー
ン・シャーロット島の浜辺に、一隻の難
波船が漂流してきた。乗っていた尾張(名
古屋)出身の漁夫三人は、無事救出され、
その後日本へ帰っていった……。

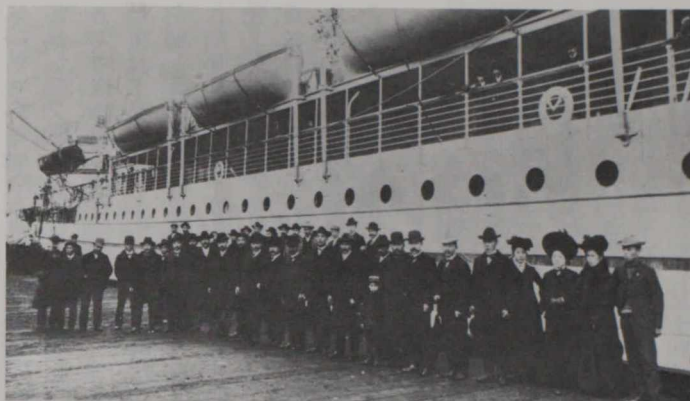
記録の上では、この三人が当時、ニュ
ー・カレドニアと称されていた処女地、
カナダ太平洋沿岸へ達した最初の日本人
とされている。もちろん、それ以前にも
同じように嵐に出会い、黒潮に乗ってカ
ナダ沿岸にたどりついた日本人漂流者が
あったことは想像に難くない。

しかし、カナダにおける日系人の物語
がはじまるのは、今からちょうど百年前
の一八七七年、すなわち、日本人が外国
人と接触することを禁じた徳川三百年の
鎖国が撤廃されてから九年目のことであ
る。当時の日本は大飛躍のときであり、

社会的、教育的、政治的、経済的諸制度
が大きく変革されている最中であつた。
有能な若者は海外へ雄飛して、欧米から
いろいろなことを学んでくるよう奨励さ
れた。日本は、一夜にして、封建社会か
ら近代国家へと大急ぎで脱皮を図っていた。

こうした激動的な日本の開明期にあつ
て、一人の冒険的な男がいた。永野萬藏
である。ペリーが徳川幕府に開国を迫つ
た一八五三年に長崎で生まれた萬藏は、
この動乱期にあつて、大工をやめ、英国
船にもぐり込んで、あてのない旅にでた。

萬藏がたまたま下船したのが、現在の
ブリティッシュ・コロンビア州ニュー・
ウエストミンスター。一八七七年五月で
あつたといわれている。萬藏自身には、
そこがどこであるのか分らなかったが、
とにかく確認されている中では、カナダ
に上陸して定着した最初の日本人となつ



▲初期の日本人移民(1910年)。

たわけである。(萬藏には息子が二人あ
つた。一人(ジョージ)は現在八十六才
で、ロサンゼルスに住んでいる。他の一
人は、ケベック州ファーンファムで妻と
息子一人、娘五人を残して亡くなってい
る。)

萬藏がその後のカナダ日系移民の先覚
者となつたのは、このように偶然のいた
ずらによるものであるが、彼のたくまし
く、強固な精神は、初期の西部カナダ開
拓に大きく貢献した日系一世たちの、辛
棒強さ、頑固さ、勤勉さの象徴となつた。

一八八七年には、和歌山県三尾村出身
の工野儀兵衛がやってきた。工野はフレ
ーザー川を上る蛙の大群をみて、故郷に
通報、村の人たちに来加を進めた。その
結果、同郷の人たちが大勢押しよせ、ス
ティーブストン(現在のブリティッシュ
・コロンビア州リッチモンドの一部)の

中核となつた。(リッチモンドと和歌山市
は姉妹都市になっている)彼らの子孫は、
今でも、日系カナダ人漁夫の大きな部分
を占めている。カナダにおける漁業の技
術や道具も、大半はこれら初期の日本人
漁夫が持ち込み、あるいは発展させたも
のだ。

またその頃、吉沢保吉は三人の仲間と
共に、バンクーバーから未知の太平洋岸を
小舟をこいで北上、豊富な漁場をみつけた。
一世の中でも、おそらく最も大胆なのは
宮城県登米郡米川村出身の及川甚三郎
であつた。及川は、一九〇六年、少なく
とも女性二人を含む八〇人ほどの村人た
ちと共に、廃船を買ってカナダへ密航し
た。もちろんこれは不法行為であつたが、
彼らの勇氣に感嘆した当局は、日本領事
館と交渉して彼らに滞在を許可した。

一八八九年、バンクーバーに日本領事
館が創設された。その頃になると、バン
クーバーやビクトリアでは日系人の数も
大きく増え、商業を営む者もかなりで
てきた。そのうち最大の成功者は田村新吉
で、数多くの事業に参画し、彼の名前を
冠した信託会社もある。田村はのちにな
って日本へ帰り、貴族院議員に推挙され
ている。



また、庭師
の岸田伊三郎
は、一九〇六
年、ビクトリ
アに茶店のあ
る日本式庭園

を作つたが、これが評判を呼び、現在で
もビクトリア観光の目玉となっている、
世界的に有名なブッチャート・ガーデン
の日本庭園も造園することになった。

太平洋沿岸の温暖な気候における造園法
に残した彼の足跡は大きい。

そのほか、大規模な銅山の発見者で、
池田金山で知られ、またクイーン・シャ
ーロット島イケダ湾の名前の由来となつ
た池田有親(新潟県出身)、若くしてヨー
ロッパへ渡り、クロンダイク(一八九〇
年代に大ゴールド・ラッシュが起きた)
で富を求め、その後カルガリーでレスト
ランを経営し、そしてサラブレッドの飼
い主となつた稲益熊太郎(福岡県出身)



◀日系人の登録風景(1942年)。

などがあつた。

初期の移住者は、大半が農村出身で、
彼らは鉱山や鉄道、あるいは木材切出し
場や製材所で働いた。そしてその多くは、
稼いだ金で肥沃なフレザー川谷やオカナ
ガン谷の未開地を買った。こうした動
きの草分け的存在は井上次郎(佐賀鍋島
藩士の長男)や山家安太郎(広島県豊田
郡豊浜村出身)らで、二人は他の日系人
農家を指導してフレザー川下流で日系
人農家を結成した。これらの農家はきわ
めて生産性が高く、他の人たちの羨望の
的となつた。そして反感も買った。山家